



いちかわし

第43号
平成23年1月1日

農業委員会だより

編集／発行 市川市農業委員会
〒272-0823 市川市東菅野2丁目23番1号(菅野終末処理場管理棟3階)
電話 047(325)0178



竹内会長

明けましておめでとうございます。
輝かしい新年をお迎えのことと心からお慶
び申し上げます。

日頃、農家の皆様方には農業委員会活動の
推進にあたり、格別のご理解とご協力を賜り、
厚く御礼申し上げます。

昨年は、記録的な猛暑で果樹をはじめとし
て本市農産物は大打撃を受け、農業が自然を
相手にした仕事であることを改めて実感させ
られたところです。

本市農業を取り巻く環境は依然として厳し
いものです。都市化の進展による営農環境の
悪化、農業従事者の高齢化、後継者不足、遊
休農地の拡大など、問題は山積しております。

そこで、農業委員会では、皆様から寄せら
れたご意見をもとに昨年8月、大久保博市川
市長に、33項目の農業施策に関する建議をい
たしました。

この建議が、実のなるものとなることを期
待するものです。

謹んで新年のお慶びを
申し上げます

農業委員会委員一同

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|
| 富田 | 三橋 | 小林 | 宇田川 | 三橋 | 島根 | 三橋 | 井上 | 岡本 | 石井 | 森 | 長谷川 | 朝倉 | 稲葉 | 石井 | 堀 | 渡邊 | 竹内 |
| 尚武 | 弘 | 妙子 | 純一 | 孝夫 | 一郎 | 三男 | 義勝 | 好夫 | 利和 | 勝之 | 宗三 | 徹男 | 健二 | 克己 | 桂治 | 和昭 | 一雄 |

農業委員会事務局職員一同

早いもので、私たち農業委員は平成20年に
就任いたしました。本年7月をもって任期
が満了となります。任期いっぱい粉骨砕身努
力していく所存でございますので、今後とも
ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上
げます

市川市農業施策について 市長に建議書を提出

市川市農業委員会では、昨年の8月25日、市川市長に建議書を提出いたしました。建議は、「農業委員会等に関する法律」に基づき行うもので、本市農業を政策的に推進していただくことを目的としております。

建議は、5つの柱にまとめ、33項目の要望としております。

建議にあたり448名の農家の皆様から貴重なご意見をいただきありがとうございます。特に要望の多かったものについては、重点要望として位置付けました。

△◎は重点要望▽

今回の建議の特徴は、各要望において具体的な数値や施策を示しており、平成23年度における市川市農業振興の重点施策にされたいとするものです。

1 都市農業の推進

- ◎(1) 農薬飛散防止対策の強化
- ◎(2) エコ農業への支援強化



市長（右から5番目）に建議書を渡す竹内会長（左から3番目）

- (3) 梨剪定枝炭化事業の推進
- (4) 園芸用廃プラスチック処理の利用率の向上
- (5) 産業廃棄物対策の強化

2 担い手の育成・確保

- ◎(1) 認定農業者の育成と支援体制の強化
- (2) 後継者の育成と支援体制の強化
- (3) 嫁・婿対策
- (4) 家族経営協定の推進
- (5) 農地利用集積円滑化団体への支援

3 農業経営安定化対策

- ◎(1) 有害鳥獣、害虫、降雹対策の強化
- ◎(2) 農業経営改善支援センターの充実
- (3) 農地税制の緩和
- (4) ブランド化への支援強化
- (5) 小規模農業者の振興対策
- (6) 農業雇用システムの充実
- (7) 耕作放棄地対策の強化
- (8) 農業灌漑用水設備の充実
- (9) 市農産品のコマージュの強化
- (10) 農業者による市民農園経営の推進
- (11) 農業経営基盤強化促進事業の推進
- (12) 行政と農業者による情報交換
- (13) 農業経営法人化の推進

4 市民との交流・協働で築く農業

- ◎(1) 農業への理解を求める施策の推進
- (14) 相続税に対する支援
- (15) 農商工の連携強化

5 新農地制度への対応

- ◎(1) 農業委員会の体制強化
- (7) 学校給食への市内産農産物の利用
- (6) 学校教育での自然体験活動の推進
- (5) 農道整備
- (4) 地産地消の推進
- (3) 農地の災害対策時の活用
- (2) 市街化農地の保全



市長に建議内容を説明する竹内会長

*詳しい内容は、別途添付してあります。また、ホームページで建議書及び農家の皆様からのご意見も公開しております。



農業について熱く語る永島敏行氏

永島敏行氏、農業を大いに語る 第5回農業者による意見交換会を開催

11月9日、市川市農業委員会と市川市農業士等協会の共催で「第5回農業者による意見交換会」がJAいちかわ本店会議室で開催されました。今回は、都市農業への理解を求めため一般市民にも参加していただきました。一般市民、農業者と合せて140名が参加しました。

主催者を代表し竹内一雄農業委員会会長が挨拶をした後、来賓の小泉勉JAいちかわ代表理事組合長、石川喜庸市川市民経済部長が祝辞を述べられました。

今回は、千葉県出身で俳優として活躍されている永島敏行氏を講師に招き、「永島敏行氏、農業を大いに語る」と題し、農業講演会を開催しました。

講演では、千葉市の旅館の息子としての生い立ち、学生時代に野球に打ち込んでいたこと、俳優活動、そして食と農業について関心を持ち、農業の応援団になるまでの体験について語っていただきました。

農業は、農業者だけで考えることではない。食べる側（消費者）も巻き込んで考えなければならぬと熱く語る永島氏。

永島氏は、自らのライフワークとして秋田県十文字町「現横手市」

で米作りを行い、また、最近では千葉県芝山町の耕作放棄地を借りて農業を営んでおります。

永島氏は、消費者に農業のことをもっと知ってもらいたい。また生産者には農業にもっと誇りを持つてもらいたいとの思いから、平成17年に青空市場を開設しました。現在、月1回、東京国際文化フォーラムで開催しております。

市場での永島氏の役割は、生産者と消費者を結びつけることであり、人と人、物と物を交流させることで、会話が生まれ、情報をつかみ、そして生産者のビジネスチャンスが生まれると話されておりました。

参加者からは、婚活や青空市場の収支、新規就農などについての質問がありました。

永島氏は最後に「何事も一歩踏み出すことが第一、そこから何かが始まる。」と力強く語っておられました。

講演会終了後に行ったアンケートでは、農業者も一般市民も「消費者を巻き込んで考える。」との考えに賛同するご意見が多数ありました。

東葛飾農業委員会連合会管内視察

11月8日、東葛飾地区8市の農業委員会会長と事務局長が船橋市の花弁農家、酪農経営農家、船橋市農業センターを視察しました。

酪農経営主は、牛舎や畑が市街地に接しており、地域住民から糞尿処理や堆肥臭での苦情を出さないことを一番に心がけているとのことでした。

地域住民に少しでも農業・農家に関心を持っていただけるよう1.3haの農地にコスモスを植えておりました。憩いの場を提供することで、地域とのコミュニケーションに努めているとのことでした。



コスモス畑を視察する各市農業委員会会長



今年も農業委員選挙の年です



農業委員会委員選挙人名簿への登載を忘れずに

農業委員は、農業委員会委員選挙人名簿に登載されている農家の方々の選挙によって選ばれます。

平成23年1月7日（金）までに「市川市農業委員会委員選挙人名簿登載申請書」に必要事項を記載し、農家組合員の方は連絡員さんを通じて、また、農家組合に未加入の方は、直接、農業委員会に提出していただき、選挙資格の調査を行います。

選挙人名簿に登載される要件を満たしている方でも、申請をしないと選挙権および被選挙権を有しくなくなります。

今年も、改選期にあたりますので、ご注意ください。

選挙人名簿登載要件

1. 市川市に住所を有する人
 2. 平成3年4月1日以前に生まれた人
 3. 耕作の業務を営む要件
 - ①10アール以上の農地において耕作の業務を営む人
 - ②10アール以上の農地において耕作の業務を営む人の同居の親族又は配偶者で、60日以上耕作に従事し、農業委員会が認めた人
 - ③10アール以上の農地につき耕作の業務を営む農業生産法人の組合員又は社員で、60日以上耕作に従事し、農業委員会が認めた人
- 申請書が届かない場合や不明な点がありましたら農業委員会事務局までご連絡ください。

農業新聞のご購読を

「全国農業新聞」は、全国農業会議所が発行している農家のための情報誌です。

農家の生活に密着した内容で、農業に関する最新の情報をわかりやすく解説しお届けしています。みなさまもご購読されてはいかがでしょうか。

毎週一回金曜日発行、購読料月額600円（送料込み）購読をご希望される方は農業委員会事務局にご連絡ください。

農業者年金のご案内

農業者年金は、農業者の老後の生活の安定と福祉の向上を目的としています。かつて、経験したことのない超高齢社会を迎え、他の制度には無い農業者にとって安心できる年金制度です。一定の要件があれば国から保険料の助成も受けられます。

お問い合わせは、農業委員会事務局もしくはJAいちかわまでご連絡ください。

編集後記

明けましておめでとうございませう。昨年、10月の菅総理の所信表明演説で唐突に参加を検討すると表明したTPPですが、経済界・農業界を巻き込んで大変な議論になっていくところですね。「TPPに参加しないと日本企業の競争力が弱くなる」とか、「参加したら国内の農業が打撃を受けてしまう」とか賛否両論、意見も様々です。消費者は、安価な外国産よりも安全・安心な国内産の農産物を求めているように思うのですが。

筆者は、農家生まれの農家育ち。とにかく安全で安心な農産物を食卓に届けられるように頑張っていきたいと思っております。私たち編集委員は、今回の「委員会だより」をもちまして退任となります。3年間ありがとうございました。

農業委員会だより編集委員

- 竹内 一雄
- 渡邊 和昭
- 岡本 好夫
- 三橋 弘

